

歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の中間評価の方法

1. 評価、検討の方法について

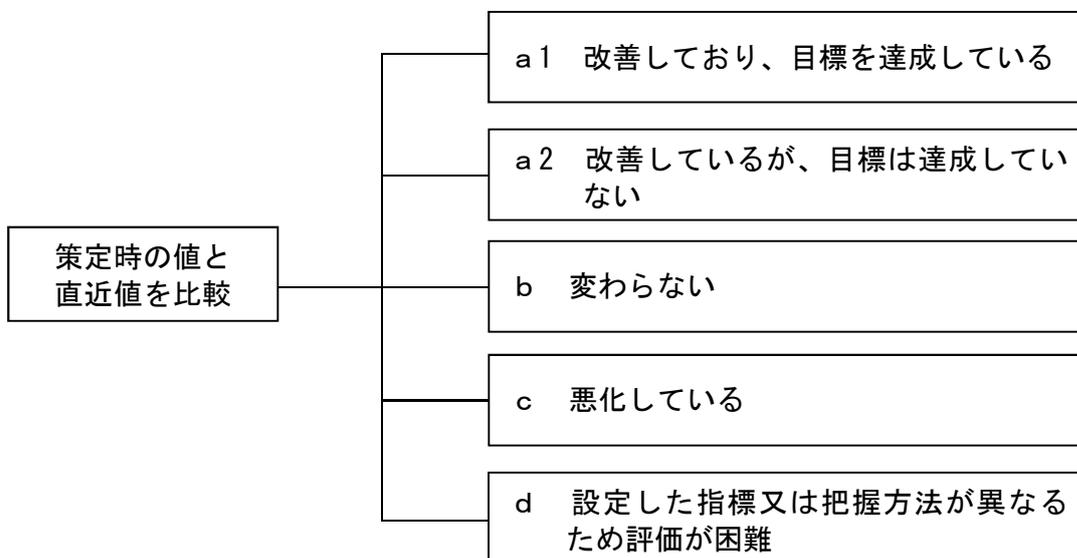
<基本的考え方>

目標に対する実績や取組の評価を行うとともに、その評価を通して値の動きや特徴的な取組について“見える化・魅せる化”する工夫を行う。

これらの評価結果を踏まえ、今後の社会状況の変化等も見据え、重点的に取り組むべき課題を検討する。

(1) 指標ごとの評価について

- 指標（19 項目）について、計画策定時の値と直近の値を比較し、分析上の課題や関連する調査・研究のデータの動向も踏まえ、目標に対する数値の動きについて、分析・評価を行う。また、すでに目標を達成している目標については、目標値の見直しを検討する。
 - ① 直近値に係るデータ分析
 - ・直近値が、目標値に対してどのような動きになっているか、留意点を含み分析する。
 - ② 評価
 - ・直近の実績値が目標に向けて、改善したか、不変または悪化した等を簡潔に記載する。
- 分析・評価の結果については、指標ごとに、「評価シート」に記載する。
- 上記②の評価については、目標に向けて、改善したか、悪化したか等を簡潔に記載した上で、以下のとおり、a1, a2, b, c, d の 5 段階で評価する。



(2) 領域ごとの評価について

- 歯科疾患の予防における目標、生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上における目標等の領域ごとに、指標全体の評価とともに関連した取組を整理し、今後の課題を検討する。

- 指標の状況については、a1, a2, b, c, dの5段階で評価した項目数を整理するとともに、指標全体の評価を簡潔に記載する。

- 関連した取組については、国、自治体、企業や団体の取組で、特徴的なものを整理し、評価を行う。また、口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小に向けた取組や社会環境の整備については、複合的な取組が一体となって進んでいくので、必要に応じ取組全体が理解できるような整理をする。

(3) 今後取り組むべき課題について

- 実績値の評価、諸活動の評価を踏まえつつ、今後の社会状況の変化を見据え、重点的に取り組むべき課題について検討し、整理する。また、取り組むべき課題には、調査・研究もその一つとして含める。